

会 議 録

会 議 の 名 称	第 1 3 回子ども・子育て会議	
開 催 日 時	平成30年10月12日 (金)	開会 10時
		閉会 12時
開 催 場 所	岩出市総合保健福祉センター	
議 長 氏 名	桑原義登委員	
参 (出 席) 加) 員	岩橋美奈委員、山口理絵委員、帽子律子委員、福田朱実委員、津村吉輝委員、土生川覚弥委員、松本千賀子委員、高松千珠委員、亀岡加津美委員、村田実委員、中谷博昭委員、桑原義登委員、金川めぐみ委員、 【13名】	
会 議 事 項 配	<p>議題</p> <p>① 第2期岩出市子ども子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前説明 ・ 事前意見について説明 ・ 意見聴取 <p>②その他</p>	<p>会議結果</p> <p>「会議の経過」のとおり</p>
付 資 料	<p>資料1 調査票の配布数（教育・保育施設別、小学校別等）に係る資料</p> <p>資料2 事前配布資料へのご意見等及び修正内容・修正方針</p> <p>資料3-1 就学前児童用 調査票 別紙案内文</p> <p>資料3-2 就学前児童用 調査票（修正案）</p> <p>資料4 小学生用 調査票（修正案）</p> <p>参考 事前配布資料（就学前児童用 調査票（案）、小学生用 調査票（案）、県生活実態調査 調査票）</p>	
会 議 録 の 確 定	確定年月日	記名押印
	平成30年10月31日	岩出市子ども・子育て会議 会長 桑原 義登 ㊟

議題・決定又は確認事項等

【開会】

10時00分

【課長あいさつ】

【本年度改選委員紹介、事務局紹介】

【議事概要】

1. 第2期岩出市子ども子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について
(概要説明)

事務局：スライド内容及び資料1に基づき概要を説明

(概要説明についての質疑応答)

A 委員 今回の調査で、前回調査と変わった点を教えていただきたい。

事務局 1点は、幼稚園の利用者でも共働き世帯が増えてきている中で、今後も保育園ではなく幼稚園の利用を求める世帯の把握がある。また、今後の教育・保育事業の利用意向について、保育料の無償化を想定した場合の設問を独自に組み込んだ設計をしている。その他の独自設問として、和歌山県で事業を開始したところである在宅育児支援事業に関する設問を追加している。

小学生用については、和歌山県の生活実態調査より、子どもの貧困にかかる設問を新たに組み込んでいる。

(調査票(修正案)について説明)

事務局 資料2、資料3-1、資料3-2、資料4に基づき説明

(事前配付資料に対する意見で本会での意見聴取が必要な意見について)

委員長 ①点目

就学前児童用調査の設問が多すぎるという意見があるが、調査票は国の手引きに基づいており、調査設問の削減は限界がある。設問数を減らすかどうかについて、改めて意見をいただきたい。特に意見が無いのなら、資料のままとしていきたい。

B 委員 国の手引きに従うということはよく分かるが、調査票を受け取った保護者が最後まで正確に答えていただけるよう、配慮が必要である。

委員長 設問数が多すぎることは、回収率にもつながるところであり、上記意見を踏まえて市に対応いただきたい。

委員長 ②点目

就学前児童用の問12の自由意見の記入欄について、2つの内容を分けた方がいいのではないか、また選択肢とする設問の方がよいのではないかということについて、意見をうかがいたい。

会議の経過

議題・決定又は確認事項等		
C	委員	自由意見の記入欄については、このままでもいいのではないかと。不満を持っている人にとっては、自由記入の方が答えやすく、選択肢にすると答えづらくなる。また記入をする人は全体の1割弱と見込まれるので、思いを持って書きたいという人にとっては、このままでもよいと思う。2つに分けた方がいいのではないという意見については、子育て環境と子育てをサポートする人等は関連し合うことなので、一体のままの方が書きやすく、分けてしまうと、どっちに何を書いたらいいか分からなくなる。問12はこのままでいいと思う。
D	委員	この設問の自由記入欄については、何を書けばいいのか、何を書いてほしいのか分からないと感じた。身近な人や行政担当者に何をしてほしいのかを考えたところで、具体的に書けないと思う。
E	委員	自由記入欄は、最後の問34にもあるので、この問12での設問は問い方を変えればいいのかと思う。
事務局		前回調査で、同じ設問を選択肢に変えていた自治体の事例もある。 (事務局手持ち資料より他自治体の事例を踏まえて説明)
F	委員	事務局側が、どういう意見を求めているかにもよるのではないかと。それがはっきりしていれば、選択肢にして選ぶといったことでもいいのではないかと。
G	委員	どのようなサポートを求めるのかについて、行為としてほしいことなのか、ハコモノといった環境なのか、その点でこの設問は分かりかねる。その点が分かりやすくなれば、書きやすくなる。
H	委員	「例えば、相談先や子ども預け先などについて」のように追記すれば、書きやすくなるのではないかと。
事務局		前の設問からの流れを踏まえて、問12の設問の問い方については、自由記入欄のままとするか、選択肢とするか改めて検討させていただきたい。
I	委員	回答者にとっては、自由記入欄は、最後になっている方が答えやすいと思う。前半に自由記入欄があると負担を感じる。選択肢として、何か自由に書きたいことがあれば「その他」に書いていけばよいと思う。
委員長		本調査票については、いつまでに決定しなければならないのか。
事務局		本日の意見を踏まえ修正を進めるが、その修正は事務局に一任いただき、委員長に提示する。スケジュールがタイトであるため、最終的には、委員長・副委員長による決裁としていただきたい。

会議の経過

議題・決定又は確認事項等	
委員 長	事務局からの修正案について、改めて確認させていただき事務局から提案あったように、委員長、副委員長の決裁をもって委員皆様にご了承いただいたものとさせていただきます。
委員 長	③点目 今回、就学前児童用、小学生用ともに新たに追加した年収の設問について、選択肢の区分が細かいという意見がある。事務局からは、集計にあたっては選択肢をまとめていくことも可能と説明があったが、ご意見を伺いたい。
事務局	年収の設問、選択肢については、県の生活実態調査と同じものとしている。県に確認すると、相対的貧困率を割り出すには、このくらいの区分が必要とのことだった。
A 委員	相対的貧困率も今回の調査で割り出していくことを考えているか。
事務局	岩出市として、独自の相対的貧困率を割り出していきたいと考えている。
C 委員	相対的貧困率を割り出すには、家族の人数も必要になるので、県生活実態調査の「問5」と同じ設問を追加する必要がある。この回答が無いと割り出せない。 1,000万円以上の層は、細かすぎるかもしれないが、分けておいた方がいいと思う。分けなくてもよいとは明確には言えない。
事務局	県生活実態調査の「問5」と同じ設問を追加する。
委員 長	選択肢の区分については、相対的貧困率も今回の調査で割り出していくために必要なものとする。 ④点目 小学生用の調査票では、本年度、県で実施されている生活実態調査の設問の一部も盛り込み、既に何点か設問を追加しているが、改めて意見をうかがいたい。
事務局	先ほどの説明においては、今回の調査票に追加した設問として説明したが、県の調査票からどの設問を選んだのか、事前配布資料の調査票に基づき、改めて説明する。 (改めて資料説明) なお、事前にかがっていた意見より、全ての意見を追加できたわけではなく、また、意見としてうかがっていなかったものも一部追加している。
D 委員	就学児童調査票の問31の「C 補充学習」については、全ての生徒に必須とされているもので、時間割に組み込まれているものではないのか。
J 委員	中学校と小学校では異なるかもしれないが、この設問での内容としては必須とされているものではなく、特別に支援が必要なお子さんに対して放課後に行う補充学習としてとらえるべきである。
委員 長	「C 補充学習」のみ注釈が無いので、そのような主旨の注釈が必要ではないか。

議題・決定又は確認事項等	
事務局	注釈については、県の調査票を転載したものであったので、今回の調査票には、そのような主旨が分かるような注釈として追加する。
C 委員	小学生用の調査票について、問12～14のような設問を追加するのであれば、大項目としては、「お子さんの生活環境」だけではなく、「お子さんとご家族の生活環境」とした方が適切ではないか。また、県の生活実態調査の項目については、前半では割と答えやすいものからとし、後半になるほど、ヘビーな内容の設問となっている（今回追加した問12～14→県調査では46問中、問43～45）。今回の調査票では、このような設問を前半に入れると、回答者として精神的な負担になることも考えられるので、後ろに回した方が答えやすいのではないか。
事務局	大項目については、ご指摘いただいた意見にしたがい、修正を進める。また、新たに追加した問12、13については、事前にいただいた意見では、追加すべき設問として挙がっておらず、事務局の判断で入れたものである。少なくとも、このような前半で問うべき設問ではないので、追加するのであれば、順番は後ろに回すこととする。
C 委員	ヘビーな項目であるが、個人的には必要な設問と考える。
事務局	クロス集計項目としても重要な項目となるので、設問は残す方向とし、順番については検討する。
I 委員	小学生用の問15（就学児童用 問13と共通）を回答する際、正社員であっても短時間勤務という勤務形態があり、私も実際にそのような勤務をしている。その場合、フルタイム以外であるが、パート・アルバイトには該当しないので、回答に困るので、選択肢を増やすといったことも検討してほしい。
事務局	フルタイムに相反するものとして、確かにパート・アルバイト等は合っていない。国としても正社員、パート・アルバイトの区分を聞いているわけではないと思うので、ご指摘の通り、短時間勤務の方がどれに該当するか分かるようにする。
K 委員	正社員の定義については、勤務日数、時間、給与といった様々な観点からとなり、そのような内容を記載することも大変なので、このままの選択肢でもよいと思う。
G 委員	フルタイムとは法律上は週40時間とされているので、働く時間数だけ、週40時間以上・40時間未満に切り分けた記載とすればいいのではないか。
事務局	国が示す手引きと主旨が変わるわけでないので、選択肢より、「パート・アルバイト等」の文言を削除した上で、注釈として勤務時間に関する内容を追記することとする。

議題・決定又は確認事項等	
委員長	この設問の選択肢の件についても、事務局から示された修正案について、改めて委員長、副委員長で確認させていただくこととする。
岩橋委員	小学生用の問4（就学前児童も共通）で、「その他」の人が回答した場合、以降の設問で「父親」「母親」等について問う設問があるが、「里親」などが回答した場合などについては、「父親」「母親」とは誰のことを聞いているのか、どのように回答すればいい分りにくいのではないかと。県の調査票では、「※里親や施設職員の方は、お子さんのお母さま、お父さまについて回答できる範囲で回答してください」といった注釈が示されている。
事務局	母親、父親以外の「その他」は、回答数として多くを占めるものではなく、回答の傾向が大きく変わることも考えにくいのですが、県実態調査に合わせた選択肢の増加、注釈の追記について検討していく。
C委員	資料1の調査票の発送対象者について、小学5年生の保護者から外されていることが気になる。その理由として、県の生活実態調査の全てを今回聞いているわけではないこと、また、この計画自体は、2期以降、3期、4期と将来にわたって策定されていくことを考えると、この2期の調査だけ小学5年生が外されるということになるとは、問題になるのではないかと。回答する立場としては、別の調査で同じ設問を再度答えることは負担になるので配慮したということだが、将来的なことを考えると本調査でも5年生の保護者も対象とすべきである。
事務局	5年生を入れても、他の学年の数が大きく変わるわけではないので、各学年の配布数について再検討し、教育委員会等に改めて依頼する。一部の保護者の方にとっては、負担になるかもしれないが、ご理解いただけるようお願いしていく。
H委員	小学生用の調査票にヘビーな内容の項目が追加され、ここまでのことを聞いている調査はあまり見たことがなかった。就学前児童用の調査票にも追加してはどうかと思うが、設問数が多くなるといったところで、難しいかもしれない。 病児保育、病後児保育の問題についても、踏み込んだ設問としていただいているが、この地域の施設整備として、病後児保育の施設はあるものの、病児保育の施設は岩出・紀の川周辺にない。岩出・紀の川は共働き世帯も多く、ニーズとしても高いと思うが、この点で、保護者の就労にも支障をきたしている方が多いと考えられる。このような状況を踏まえたニーズ調査も進めていただければありがたい。
事務局	病気の際の対応としては、就学前の問24（小学生の問22）でいろいろと聞いており、本調査でさらに具体的な内容を聞いていくことは難しいものの、この内容以外で掘り下げて聞いていくべきことがあれば、教えていただきたい。前回調査では、ニーズとしてはあまり高くない結果となっていたが、今回ニーズが高くなるということになれば、どのような施策としていくべきか、検討する必要がある。

議題・決定又は確認事項等

G 委員 病児保育のニーズがあるから、施策を進めるということではなく、病気の時くらいは保護者が面倒を見るべきであり、それができないから病児を預けなければならないという現実を踏まえるべきである。病気の時には保護者がしっかり面倒を見てあげられるような社会情勢にしていく、そのようなことを発信していくことも必要かと思う。ニーズをただくみ取ればよいということではなく、行政として慎重な対応を取っていただきたい。

D 委員 私は現在専業主婦であり、子どもに接する時間が充分にあるものの、「今、助けてほしい」と感じることは多々ある。子どもと一緒にいることの方がしんどいと感じている母親もいると思う。その点で、待機児童も増えているということで、その手前の部分での対策が必要かと思う。自分の経験でも、1人目、2人目までは大変で、3人目くらいで育児の楽しみが分かってきたといった実感がある。また、妊娠から出産にかけても不安を抱えている母親もあり、何を助けてほしいか分からない、そのような切羽詰まった状況にあるということも、いろいろな人に分かってもらいたい。子育て世代に対するニーズ調査だけでなく、幅広い世代にわたって、子育ての現状がどういうものか、発信していけるようなものにしてほしい。

委員 長 そのための事業計画となるものなので、調査結果を基礎資料として、どのように運用していくか今後検討していく。

事務局 本日いただいた意見を踏まえ、調査票の修正を進め、ニーズ調査の実施を進めていく。

【その他】
なし

【閉会】
12時00分閉会